

# 新川の自然のすがた

八千代市は川から台地まで、いろいろな環境が組み合わさっているため、さまざまな生き物がくらすことができます。全体の眺めもよいし、水辺は大勢の市民に親しまれています。ここは八千代市の代表的な自然景観です。

新川：宮内橋から



**アブラコウモリ** 小夜行性で日没後しばらくの間、住宅地や新川の上空でよく見られます。  
★詳しくは裏面に載っています。



**ベニシジミ** 小形のチョウで年に数回発生します。食草はスイバ、ギンギンなどです。



**ヒメアカタテハ** 明るい荒地を好み、幼虫はヨモギの葉を巻いて巣を作ります。川沿いに生息します。



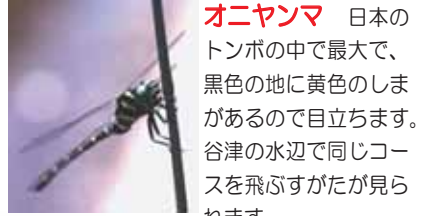
**ギンヤンマ** 大形のヤンマでオスは腹部第2節背面が青色、メスは緑色です。水草のある水辺に現れます。



**チョウトンボ** 翅が紫黒色、先端は透明で、チョウのような飛び方が特徴です。

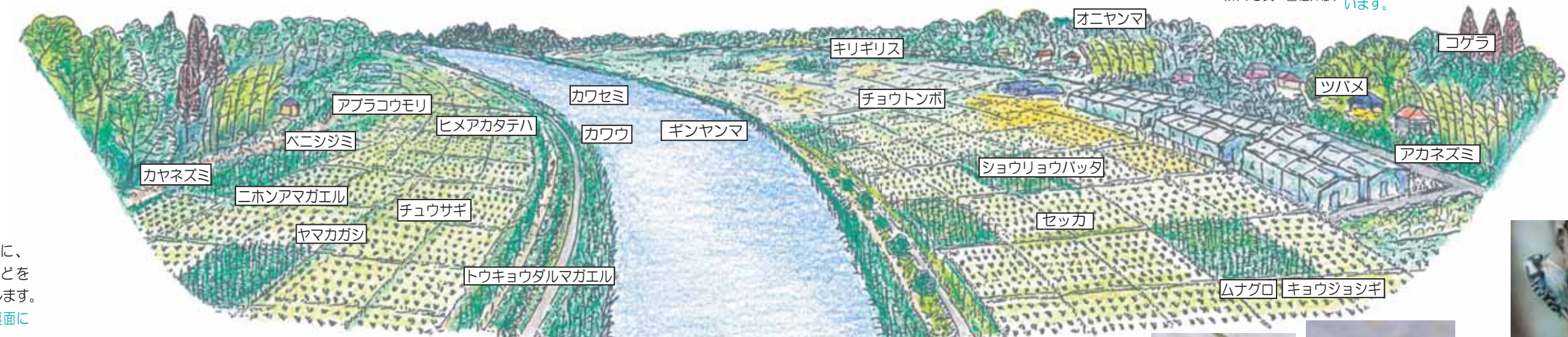


**ツバメ** 夏鳥。建物のき先などに泥と枯れ草でおわん型の巣を作ります（幼鳥がえさを待っていました）。  
★詳しくは裏面に載っています。



**オニヤンマ** 日本のトンボの中で最大で、黒色の地に黄色のしまがあるため目立ちます。谷津の水辺で同じコースを飛ぶすがたが見られます。

**カヤネズミ** 最小のネズミで、耕さなくなった水田のチガヤなどで上手に丸い巣をつくりまわります。用心深いことや夜行性のために見ることはむずかしい動物です。



**ヤマカガシ** 水辺を中心に、カエル類などを食べて生活します。  
★詳しくは裏面に載っています。



**チュウサギ** 夏鳥。中形の白サギで、水田や川岸で魚などを食べます。ダイサギやコサギとともに白サギの仲間です。



**カワウ** 留鳥。顔が黄色です。潜水が巧みで魚をたべます。  
★詳しくは裏面に載っています。



**カワセミ** 夏鳥。「ツイー」と鳴き、水面近くを低く飛行し、小魚をめがけて水面に急降下して捕らえます。



**セッカ** 夏鳥。「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と鳴きながら飛びあがり、降りる時は「チャッ、チャッ、チャッ」と鳴きます。オオヨシキリ（夏鳥。鳴き声「ギョギョシ、ギョギョシ」）とともに堤防やヨシ原で見られる代表的な鳥です。



**ムナグロ** 旅鳥。夏羽はタイゼンに似ていますが、頭の上や胸が黒く体が小さいです。5月に北上する途中、田畑や水辺に群れて現れます。

**コケラ** 留鳥。日本で最も小さなキツツキです。「ト、ト、ト、ト」は、すばやいリズムで虫を探す時のくちばしで幹を打つ音。「ギイー、ギイー」と鳴きます。



**スギ、ヒノキ** などの植林です。



台地の林、斜面林、林のへりの低木の林です。

ヨシなどが群生しています。

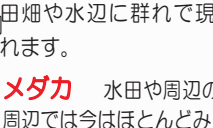


**ハイケボタル** 幼虫。冬にも水がかれない水田（湿田）で幼虫は小さな巻貝（カワナやサカマキガイなど）を食べています。光を点滅しながら飛ぶのは7月中旬が中心です。

浅い岸辺や水ぎわにはマコモなどが群生しています。

堤防には下部にヨシ、上部にオギなどが群生しています。

**ドジョウ** 水田や周辺の水路などで見られます。  
★詳しくは裏面に載っています。



**メダカ** 水田や周辺の小川にすみます。新川周辺では今はほとんどみられません。  
★詳しくは裏面に載っています。

シイ、カシなどの林です。タケ林が増えています。



**トウキョウダルマガエル** 成体は水辺にすみ、水田や浅い池、沼などに産卵し、オタマジャクシは大きく全長は6cmになります。  
★詳しくは裏面に載っています。



**ニホンアマガエル** 林野から人家の庭まで分布が広いので数が多く、身近なカエルです。  
★詳しくは裏面に載っています。

コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、オオクチバス、レンギョなどの大型の魚のほか、シラウオ、クルマサヨリなど新川にはめずらしい魚も生息しています。



**キリギリス** 夏、草むらで「ギーチョ」と鳴きます。近ごろとても少なくなっています。  
★詳しくは裏面に載っています。

**ショウリョウバッタ** 日本のバッタの中で体長が最大で、オスは飛ぶとき「キチキチキチ」と音をたてるので「キチキチバッタ」とも呼ばれます。

